

3. ICRI 東アジア海地域戦略

ICRI の背景

ICRI が設立された理由は、マングローブ林、海草藻場、および海岸を含むサンゴ礁およびその関連生態系がますます悪化し、その範囲が広がってきたことへの関心が高まってきたからである。ICRI は、各国政府、国際機関、地域的機関、NGO、多数国参加の開発銀行、および私的なセクターグループが地球規模で参画して行われるものである。この計画は各国および地域的なグループがサンゴ礁およびその関連生態系を効果的に保全し、また持続可能な方法で利用できる能力を増強することを目的としている。

ICRI の成否は、地球規模の協力と、現存する資源の効果的な活用ができるかどうか、そしてこれを実施するためにはどのようなメカニズムが効果的かを定めることができるかどうかにかかっている。

ICRI への取り組みは下記の 2 つの方法により行われる。

- (i) サンゴ礁およびその環境を保全し、回復させ、持続可能な方法で利用するために、地球規模の同意を取り付けること。
- (ii) サンゴ礁の保全、持続可能な利用および管理を確実にするために、新規の諸活動の発展を援助し促進すると同時に、各国の政府および諸機関の活動を活用し調整すること。

ICRI は 1995 年 5 月にフィリピンのドゥマゲティで開催された国際ワークショップで開始された。このワークショップには 40 カ国から、政府、非政府の国際的な機関および国家的な機関、および多国間、二国間の donor organization の 106 人が参加した。この研究会は「Call to Action (行動の呼びかけ)」および「Framework for Action (行動の枠組み)」を採択した。これらはサンゴ礁およびその関連生態系の保全および持続可能な利用を確実にするための今後の国際的協力および調整の基礎となるものである。

「行動の枠組み」は下記の原則に基づいている。

- ・ ICRI の目的を達成するためには、各国政府、地域社会、ドナー、NGO、民間産業部門、資源を利用する者および科学者が全て参加し、関わることを求められる。
- ・ サンゴ礁およびその関連生態系、およびそれらに依存している地域社会の安定に対し、明白で、建設的で、測定可能な効果をもたらす諸活動を支援することを最優先にする。
- ・ サンゴ礁の衰退の主な原因は人間の諸活動である。そのため、サンゴ礁を管理することはこの人間の諸活動を管理することを意味している。会議室から海岸まで、その判断や行動がサンゴ礁に影響を与える個人個人が、サンゴ礁およびその関連生態系の保全および持続可能な利用について意識し、責任を負う必要がある。
- ・ ICRI の全ての活動においては、諸国および諸地域の文化、伝統および統治の多様性が認識され、これらが組み込まなければならない。
- ・ 地域社会の参加を特に重視した統合化された沿岸管理（ICM）により、サンゴ礁およびその関連生態系の保全および持続可能な使用のための枠組みと方法を決める。
- ・ サンゴ礁およびその関連生態系を保全し、かつ持続可能に利用するためには長期間に渡る関わりが必要であり、サンゴ礁の管理方法の継続的な改善には適切な方法を永続的に行うことが必要である。
- ・ 戦略的な研究・モニタリングの計画を ICRI に組み入れる必要がある。その理由は、サンゴ礁およびその関連生態系の管理は十分な科学的な情報に基づいて行われなければならないからである。
- ・ 「行動の枠組み」に基づく行動においては、サンゴ礁およびその関連生態系に関する諸問題に取り組む国際的な合意および機関を考慮に入れ、またこれらを最大限に活用しなければならない。ICRI は、サンゴ礁およびその関連生態系の利益た

めに、現存する資源を全てのセクターの間で活用しまた融通しやすくする。

東アジア地域におけるサンゴ礁とその関連生態系

東アジア海地域（EAS）はサンゴ礁とその関連生態系の動植物相の多様性の地球上の中心として認識されており、そのことがこの地域の海洋生物多様性の保護を地球規模での重要な事にしている。インドネシア、フィリピンおよびスプラルティー諸島からは70属以上の造礁サンゴが記録されている。一方、この地域の他の場所では50を超える属が発見されている。海草およびマングローブの種の多様性はこの地域全体に渡って素晴らしいものであり、この海域で見られる植物種が世界中で最も多い。この海域ではその他の浅海の種の多様性もまた非常に高い。例えば、中部インドネシアおよび南部フィリピン内の諸地域では2500種近くのサンゴ礁および沿岸性の魚類が記録されている。

東アジア海地域におけるサンゴ礁およびその関連生態系の保全および持続可能な利用、およびこれらのサンゴ礁およびその関連生態系が持つ生物多様性には、議論の余地のない社会的、経済的、そして生態学的重要性がある。これらの多様で生産的な生態系は重要な漁業資源を養っており、地域社会に対して重要な食料と収入をもたらしている。サンゴ礁およびその関連生態系に関連した観光事業は雇用の確保と外貨の収入源に重要である。これらの相互に関連した生態系は、この海域内で幼生として移動しまたは運ばれる多くの海洋生物の種の産卵および成長のための場所である。

残念ながら、この海域の海洋生物の生息地は徐々に、陸上および海上の汚染を発生させる活動および汚染源の脅威にさらされつつある。これらの汚染および過度な開発および物理的な危害が相まってサンゴ礁およびその関連生態系の衰退と破壊を招いている。これらがもたらす社会的、経済的および生態学的影响は、特にこの海域の発展途上国にとって深刻である。

東アジア地域のサンゴ礁およびその関連生態系に対する主な脅威には次の点がある。

- ・陸上を発生源とする汚染。特に汚水、肥料、堆積土砂、殺虫剤、有毒廃棄物、固形廃棄物および油漏れ。

- ・持続不可能で不適当な土地の使用行為が原因となる土地の浸食による土砂の堆積。
- ・サンゴ礁の資源の持続不可能な開発。これには過剰な漁獲や持続不可能な観光事業がある。
- ・破壊的漁法および漁獲法。これにはシアン化物や爆薬の使用などがある。
- ・埋め立て、および不適当な沿岸の工事。
- ・環境への影響に対する評価が不完全な状態で実施される、沿岸および海洋開発。
- ・水路の爆破および浚渫。
- ・自然的な災害（例えば、オニヒトデの大発生、台風、異常気象など）。

この戦略の目的

この戦略は、1996年3月18日～22日にインドネシアのバリで開催された ICRI 東アジア海地域会合の参加者が作成したものである。この戦略は東アジア海地域における「行動の呼びかけ」および「行動の枠組み」を実施するための基礎となるものである。

この戦略は、東アジア地域におけるサンゴ礁とその関連生態系の保全および持続可能な利用に関連する共通した全体的な諸問題を明確にして取り組もうとするものである。この戦略では、この海域の諸国が独自の必要性和優先事項を持っていること、そしてそれらは国家的レベルで論じられなければならないことが認識されている。この戦略の目的は、個々の国が ICRI の目標を達成するに当たって、調整され協調した地域的な行動を取れるようにすることにある。

この戦略では、東アジア海地域内において、サンゴ礁およびその関連生態系の保全および持続可能な利用に関する諸問題に取り組んでいる、多くの計画や手続きが進行中であることも認識している。この戦略は、協力、調整および資源の効果的な使用についての各地域の優先事項を明確にすることにより、これらの活動を支援することを

目標としている。

東アジア海地域は、世界の他の地域と協力して、ICRI 計画により沿岸の資源の持続可能な管理を行うようにしなければならない。これを達成するためには、統合化された沿岸の管理の必要性を周知させ、国際的な会議や機構において情報および管理方法の実例を伝えることが必要となる。この国際的な会議には、例えば、「持続可能な開発についての会議」、APEC、国際サンゴ礁学会があり、国際的な機構には GCRMN 等がある。この地域で得られた、他の地域を援助するための専門的知識を活用することが奨励され、この東アジア海地域が地球規模の行動の枠組みを実施する能力を向上させるためには他の地域から専門知識を導入することが歓迎される。

この戦略は、関連する国際的な機関、合意および活動を考慮し、またはこれらへの貢献として実施されるべきである。この戦略を実施する場合は、現存する情報を考慮し、現存するプロジェクトを補完するように努め、現存するプログラムと調和するようにしなければならない。この戦略に示されている諸行動が、サンゴ礁およびその関連生態系の保全および持続可能な利用を東アジア海地域の背景と様々な優先事項の中で達成するにはどのようにしたらよいかの概略を決めるものである。

沿岸の管理

サンゴ礁およびその関連生態系を保全し持続可能な状態で使用するためには、これらへの影響を最小限にし、または全くなすための改善されたそして持続された管理により人間活動が行われなければならない。ICRI の「行動の枠組み」では、これを達成するための管理の範囲の概略を説明し、効果的な統合化した沿岸管理 (ICM) を最優先にすべきであると明確に述べている。

ICM は、沿岸地域における開発と管理に関する決定を確実に環境保護の目標に合わせ、それにより影響を受ける者が参加して行われるようにするための手段である。さらに、ICM は、サンゴ礁およびその関連生態系の資源の持続可能な利用により最大限の利益が得られるようにし、一方でこの資源の利用により発生する各種の矛盾と有害な影響を最小限にするための方法でもある。

東アジア海地域のサンゴ礁およびその関連生態系を効果的に管理するためには、地

域的そして国家的な取り組みが必要となる。地域的なレベルにおいては、管理プログラムを作成し実施する場合の関連諸国の支援のための調整作業も含まれる。また、国家的なレベルでは、ICM を効果的に行うことができるようにするための国家的方針と法律を作り実施することが必要になり、さらにこれらの方針と法律を効果あるものにするプログラムを実施することが必要になる。この管理計画とその実施の成否は、全ての関係者、特に地域の住民および資源の利用者を支援し、これらを参画させることができるか否かにかかっている。

目標 I:

ICM によりサンゴ礁とその関連生態系の保全および持続可能な利用に備えること。

1.1 ICM のための政策と法律

目的

東アジア海地域内の全ての国において、ICM のための効果的な政策と法律を作りこれを実施すること。

行動

- a. ICRI の「行動の呼びかけ」と「行動の枠組み」、および ICRI の東アジア海地域戦略を採択し、その原則、目的、行動を国家的な政策の優先事項に組み入れる。
- b. ICM のための国家的な政策と法律をつくる。
- c. 政策を作る過程における関係機関の協調、代表的な計画の作成、および政策の決定を促進する。
- d. 国家的、地域的そして国際的な政策と法律の連携を促進する。

1.2 ICM プログラムの実施

目的

効果的で統合化された沿岸管理プログラムを作成し、実施すること。

行動

- a. サンゴ礁管理担当の国家機関、州の機関および地方の機関の間の協調を効果あるものにするためのメカニズムをつくる。
- b. 陸上および海洋を発生源とする汚染を抑制し最小限にするための手段をつくり、それを実施する。その場合、「the Global Plan of Action for the Protection of the Marine Environment from Land Based Activities (陸上での諸活動から海洋環境を保護するための地球規模の行動計画)」を念頭に置く。
- c. 海洋資源の採取を持続可能なものとなるようにする。その場合、持続可能な採取のレベルについての情報が不足しているときは予防的な処置を取る。
- d. 破壊的な漁法を禁止する。その漁法にはシアン化物や爆薬の使用などがある。
- e. 沿岸および海洋の開発が環境に影響を与えないようにする。そのための対策としては次のものがある。
 - ・ 開発計画のEIA（環境影響評価）を行なう。
 - ・ 観光事業およびレクリエーションのための活動を効果的に管理する。
 - ・ 埋め立てを最小限にし、規制する。
 - ・ 魚の養殖の影響を最小限にする。
 - ・ 沿岸の土木工事および建設工事が環境に影響を与えないようにする。
 - ・ 浚渫、水路の発破工事および鉱物の採掘の影響を最小限にする。
- f. 効果的に海域が保護されるシステムをつくる。これには管理計画の作成と実施が含まれる。
- g. ICM のプログラムの成否を監視し評価する。

- h. メンバー国の合意を得ながら、メンバー国に対し、ICMに取り組む地域的なプロジェクトおよびプログラムへの参加を奨励する。

1.3 サンゴ礁およびその関連生態系の資源の利用の権利と公平性

目的

サンゴ礁およびその関連生態系の保全と持続可能な利用において、社会的な公平性、貧困、利用の権利、および合理的な資源の利用方法に関する諸問題に取り組むこと。

行動

- a. 資源の割り当てと利用を公平にし、合理的にし、持続可能なものにする資源管理戦略を作成し、実施する。
- b. ICM プログラムが、特に地域住民が必要とする、社会的、経済的、そして文化的な事柄に取り組むようにする。
- c. サンゴ礁およびその関連生態系の持続不可能な利用の代わりとなる収入源を用意する。
- d. サンゴ礁およびその関連生態系の保全および持続可能な利用において、適切で環境に優しい利用を発展させ促進する。

1.4 サンゴ礁の経済的価値およびその他の価値を方針の決定に反映させる。

目的

沿岸および海洋資源の利用および開発において、サンゴ礁およびその関連生態系の経済的価値およびその他の価値を政策の決定に反映させる。

行動

- a. resource accounting(資源計算法)を採用し、サンゴ礁およびその関連生態系の価値をその計算に入れる。
- b. サンゴ礁およびその関連生態系の経済的価値およびその他の価値の評価の技術を開発し適用して、開発計画の過程において長期間の価値が考慮されるようにする。この開発計画には沿岸の観光事業、資源の利用、漁業などがある。
- c. サンゴ礁の保全と持続可能な利用を促進する経済的な誘因および手段を開発し適用する。

能力養成

ICRI の「行動の枠組み」では、ICM、研究・モニタリング、研修および教育のための人的資源と組織的能力を向上させる能力養成の重要性を強調している。

ICRI の東アジア海地域会合で発表された各国報告により、東アジア海地域の諸国がサンゴ礁とその関連生態系を保全し持続可能な状態で利用する能力は国によって異なることが明白になった。

各国政府、研究機関、および個人の能力を、サンゴ礁とその関連生態系を保全し持続可能な状態で使用するために必要なレベルに発展させることは基本的に重要なことである。各国政府、研究機関、および個人の能力を向上させるためには、これらの生態系の重要性に対する認識と理解を向上させなければならない。そのため、これらの生態系の環境的、社会的そして経済的な重要性についての情報と知識の発展と普及が能力の確立にとって基本的に重要なことである。

人間の能力と組織的な能力を発展させ保持するためには、協力と十分な資金も重要である。

目標 II:

各国政府、研究機関、地域社会および個人がサンゴ礁およびその関連生態系を保全

し、持続可能な状態で利用する能力を強化すること。

2.1 啓発、教育の発展と強化

目的

サンゴ礁およびその関連生態系の保全と持続可能な利用に関する諸問題についての啓発と教育を発展させ強化すること。

行動

- a. NGO、科学者、私的なセクターおよび政府関係の機関が参画して、啓発、教育および訓練の共同プログラムを開発する。
- b. NGO、科学者、私的なセクターおよび政府関係の機関の連携と協調を強化し、それにより関連する ICM の技術と知識の移転を図る。
- c. 各国間および各国内での情報、専門家、管理者、および政府機関の人員交流を図る。
- d. 教育用の資料を利用して、関係者を教育する。この関係者には、私的なセクターおよびその依頼人がある。そしてこれらの関係者が啓発と教育に参画することを奨励する。
- e. 各種の媒体（テレビ、新聞等）を使用し、サンゴ礁およびその関連生態系を利用する者全てが取り入れることができる、持続不可能な行動に対する認識と積極的な行動に対する認識の促進を計る。さらに、環境関係の問題に関わる媒体関係者を育成するためのプログラムと計画を開発する。
- f. IUCN、EAS-RCU 等の協調する諸機関を明確にし、啓発、教育および育成の共同プログラムの開発を促進する。
- g. 1997 年の国際サンゴ礁年における様々な活動の一部として、東アジア海地域サンゴ礁啓蒙キャンペーンを行う。

2.2 ICM への地域社会の参画を強化する

目的

サンゴ礁およびその関連生態系の保全と持続可能な利用において、地域社会の全てのセクターの参画が効果的になるようにすること。

行動

- a. サンゴ礁およびその関連生態系の管理において、関連する全てのグループとの協議およびこれらのグループ相互の協議が効果的に行われるようにする。
- b. サンゴ礁およびその関連生態系の保全と持続可能な利用において、地域の住民、NGO および関連する諸団体を参画させるための手段として、地域社会をベースにした管理を促進させ、また実施する。
- c. 地域社会の組織とネットワークを発展させ強化し、また ICM への地域社会の参画をしやすいするために、研修プログラムや計画を実施する。
- d. 集落の伝統的な管理方法および海洋生物とその生息地の利用方法を文書化する。
- e. ICM についてのフォーラムと公開シンポジウムにより、地域社会の組織、私的なセクター、学術団体、その他の利用者の組織、および一般大衆の間での、沿岸および海洋に関する諸問題についての協議の機会を増やす。
- f. サンゴ礁およびその関連生態系の保全と持続可能な利用のための、試験的な実証プログラムおよびプロジェクトを奨励し、またその成功例と失敗例を紹介するように奨励する。
- g. インターネット、研究会、シンポジウム等の情報交換ネットワークを発展させて、十分な情報に基づく判断ができるようにし、ICM への地域社会の参画が各地で成功するようにし、また失敗から学ぶことができるようにする。

2.3 ICMのための組織能力の強化

目的

サンゴ礁およびその関連生態系の保全と持続可能な利用に関して、それを担当する各組織の能力を向上させること。

行動

- a. 各分野において、地域的および国家的なレベルで ICM のトレーナーを要請するプログラムおよび計画を作成する。
- b. 各国が自力で ICM のための組織的能力を発展させることができるように奨励し、援助する。
- c. 東アジア海地域諸国の国別の研修プログラムを作成し、強化し、そして発展させる。これには、海草およびマングローブの管理、サンゴの復元および保護などがある。
- d. この地域内およびその中の各国内において、卓越したセンターとプログラムを確立しまた明示し、さらにこれらのセンターの間にネットワークを構築する。
- e. 各地の機構の能力を強化し、資金源の見極め、移動手段の手配、および訓練の提供における協力を通じて国内のプログラムを支援できるようにする。
- f. 研究機関の能力を強化し、例えばシアン化物による漁業に取り組むためのよりよい施設など、管理上の諸問題に取り組むことができるようにする。
- g. 研究機関および諸機構の名簿を作成し、配付し、更新し（各機関の能力、専門事項等も記載する）、人間、情報および出版物の交流を促進させる。

2.4 ICMの方針およびプログラムの調整のための地域的な協力

目的

地域的な協力を促進することにより、ICMのための政策とプログラムを調整し強化する。

行動

- a. 内陸、沿岸および外洋の管理計画と機構を統合し、最適な共同作用が行なわれるようにする。
- b. 地域的および地球規模の協定および取り決めの採択と実施を促進し、上記の機構を活用してサンゴ礁とその関連生態系の保全と持続可能な利用に取り組む。
- c. 協力的な努力により、この海域における環境問題や環境に対する影響を最小限にしまたはそれを解決するよう努める。

2.5 法的手段と実施手段

目的

サンゴ礁とその関連生態系の保全と持続可能な利用に関する、法的手段、実施の手段、および方策を決めるための手段を採択し適用する能力を発展させ、強化すること。

実行

- a. 法的手段と実施手段を開発する場合に、地域社会をベースにした持続可能な管理方法の重要性を認識する。
- b. サンゴ礁とその関連生態系の保全と持続可能な利用における経験と専門知識の共有を促進し、法的能力と実施能力の発展を助ける。
- c. 沿岸の資源の効果的な管理を助けるための、最適な実施方法を作りこれを普及させる。

- d. 破壊的な漁法を禁止する。これにはシアン化物および爆発物の使用等がある。
- e. サンゴ礁とその関連生態系の管理に関する地域的な協力を実施するための機会を索定する。
- f. 沿岸の生態系の評価に関する情報をまとめ、サンゴ礁とその関連生態系にたいする責任と、それらに対する影響を評価するためのメカニズムを明確にする。

2.6 ネットワークの構築

目的

各地域に情報交流の拠点を設立し、また大学、研究機関、科学博物館、図書館、管理機関および政府機関の通信ネットワークを確立して、地域間での連絡が効果的に行なわれるようにすること。

行動

- a. 科学者、資源の管理者、および関係者の地域的な研究会を定期的を開催し、方法を相互に調整し、事例を研究し、経験を共有できるようにする。
- b. 研究会を開催し、地域的な作業グループを作ることにより緊急の地域的なニーズに対応する能力を確立する。
- c. 各国内および各国間の連続的で開かれたチャンネルを持つネットワークシステムを構築する。
- d. 資源の利用、評価および管理について全てのレベルで訓練するための機構を用意する。これには、真の地域的な比較を可能にする標準的な場所を設定することが含まれる。
- e. 連絡、訓練、研究会およびデータベースの運営を調整するための地域的な拠点を設立する。これには固定した参照域が含まれる。

- f. 各地域の科学博物館、図書館、大学、研究機関の間の協力と連絡を促進させる。
- g. 重要な資源を交換し、問題点やその解決方法をチェックするためのシステムを奨励する。そのための媒体としては、インターネットを含むマルチメディア、新聞、ラジオ、テレビ、ポスター、学校用品等がある。

2.7 データベース

目的

実用性の高い、地域的および国家的なデータベースを開発し維持する能力を持つこと。このデータベースの内容は、最新のデータ、文献情報、および研究、管理の資源の目録である。

行動

- a. 適切な設備と人員を備えた、国家的、地域的な環境についてのデータベースの確立を促進する。このデータベースは GCRMN と ReefBase にリンクさせる。これらのデータベースは標準化された構造を持っており、最新の情報、関連する文献、および研究、管理の資源を備えたものである。
- b. サンゴ礁およびその関連生態系についての全ての文献の国家的、地域的な保管場所をつくる。ここには特に、入手の難しい、NGO の報告書、未公開の報告書を中心に保管する。
- c. データベースの運営についての原則や規定について、各地域で研修を行い、その内容を全てのレベルにおいて継続的に向上させる。
- d. 全ての国が地域のデータベースへのアクセスを可能にする施設を備えるようにする。

研究と監視

東アジア海地域には、沿岸の資源が持続可能な状態で維持、管理できるようにするために、提起された課題に答えなくてはならない明確な地域的な問題がある。これらの問題の多くには、この地域内の諸国の持つ専門知識と施設を活用し発展させながら、地域的な規模でまとめて取り組む必要がある。環境関係の科学者、社会学者、および研究・モニタリングの管理者は、彼らが取り組んでいる諸問題が全ての関係者との相談のもとで解決されるようにしなければならない。この研究から得られる答えと利益は、政府から漁民、資源の利用者まで全てのレベルでより広く社会に広められなければならない。

管理方針の決定を支援するために必要な十分な情報には、学際的なプログラムが不可欠である。これは次に示されている行動の多くに反映されている。

目標 III:

現在ある研究・モニタリングについての情報を効果的に利用することにより、サンゴ礁とその関連生態系の保全および持続可能な利用についての主要な管理上の疑問点に答え、さらに、適切な研究・モニタリングの活動を発展させること。

3.1 管理プログラムを支援するための研究・モニタリング

目的

戦略的研究（社会的研究を含む）により、政策決定者に適切な情報を提供して、情報を提供された状態で行う管理方針決定を支援し、沿岸の資源が確実に持続可能な状態で使用されるようにすること。

行動

- a. 管理者と科学者が下記を目的として協力できるようにする。
 - ・研究・モニタリングにより答えを出すことが可能な管理上の諸問題を明確にすること。

- ・これらの問題点に取り組む研究・モニタリングプログラムを作り、実施する。
- b. サンゴ礁生物群集（魚類、サンゴ、疾病、およびオニヒトデとサンゴ食巻貝等の捕食生物）の基本的生物学に基づく戦略的研究を促進し、共同研究を奨励する。
- c. 陸上で発生する汚染による影響についての研究を促進する。
- d. 幼生の相関性、広域汚染、移動性の種、および地球規模の気候変動の影響等の大規模な問題に取り組む、多国間の、学際的、地域的研究を奨励する。
- e. 資源管理計画の作成、MPA（海中保護区）の設定および管理を支援するための科学的な諸条件を設定し、環境影響評価（EIA）における断定的な評価、モニタリングおよび管理のための方法を開発し、発展させる。
- f. 希少種および絶命の恐れのある種についての生物学的、生態学的情報、移動のパターンについての情報を提供し、特別な保護を必要とする生息域を明確にすることにより、これらの保護に協力する。
- g. 爆発物やシアン化物による漁法等の破壊的な漁法の限度についての研究、およびこれらの影響や回復速度についての研究を主導する。
- h. 観光事業および水産養殖業の影響についての科学的、社会的研究を主導する。
- i. bioactive compounds の発見等、サンゴ礁およびその関連生態系の持続可能な利用についての従来の方法以外の方法の研究を奨励する。

3.2 モニタリング

目的

生態系の状態と傾向についての定期的な報告を行なうために地域的なモニタリングネットワークを構築すること。

行動

- a. サンゴ礁およびその関連生態系の状態についての情報の収集、分析および解説を奨励し、それによりこれらの資源の管理と持続可能な利用を促進する。
- b. 標準化された方法により各国におけるモニタリングのプログラムを確立、展開し、資源の状態と傾向を評価できるようにする。
- c. GCRMN の地域的拠点として、モニタリングへの参画を促進する。
- d. この地域全体において、モニタリングおよびリモートセンシングの能力を持たせ、展開させ、またその結果として得られるデータの分析と解説を地域外に貢献する機関の設立を奨励する。

3.3 研究・モニタリングの方法

目的

この地域全体において、首尾一貫した、そして一様な、標準的方法が適用され、それにより、資源の評価と管理の能力を向上させ、また地域的な規模で主問題に取り組むことができるようにすること。

行動

- a. この地域全体の全ての国が海中で研究を行えるように教育し、必要な器材を持てるようにする。
- b. この地域内の全ての国において標準的な方法を使用することの必要性を認識する。
- c. 研究の協力を奨励し、各種の方法をお互いにチェックし交換できるようにする。
- d. 地域レベルで、モニタリングのための基本的方法を維持しつつ、使用する各種の方法を理解し適応できるように各国を助ける。

- e. 危機的状態にある種の衰退、持続可能性のレベル、および養殖のための新規のそして適切な方法の開発を奨励する。

3.4 東アジア海地域の生物多様性

目的

東アジア海地域が海洋生物多様性の地球規模の中心であることを認識し、この生物多様性の維持に貢献する方法をより深く理解し、それによりその方法が長期間維持されるようにすること。

行動

- a. 東アジア海地域の種の日録をつくり、これを更新する。ここでは特に希少種および危機に瀕している種を主な対象にする。
- b. 沿岸および沖合の生物多様性を効果的に保護するために重要で適切な場所を明白にする。
- c. 分類学および生物地理学における基本的な研究を奨励する。
- d. 奨学金と雇用の機会を提供することにより、博物館の収集物と学芸員の地位を維持することを確立し奨励する。
- e. 海中保護区の地域的なネットワークの確立を奨励し、それにより海洋生物多様性の維持ができるようにする。

3.5 回復と再生

目的

再生により、沿岸資源の自然回復と自然過程の復帰の速度を加速すること。

行動

- a. 各国およびこの海域で再生に適した場所を明確にする。
- b. 可能な場合は衰退の原因が除去されるようにし、それにより、再生の最中およびその後、その場所が確実に保護されるようにする。
- c. サンゴ礁およびその関連生態系の再生のための技術の研究と開発を奨励する。
- d. 再生の効果と方法についての研究に協力することにより、この地域内、および他の地域と情報を共有する。
- e. 生態系の再生による利益と様々な効果の両方を観察し評価する。

ICRI 関連の活動の諸調整、実施および検討のためのメカニズム

ICRI の「行動のための枠組み」は、サンゴ礁とその関連生態系の利益のために、全てのセクターの間で現存する資源を活用し流通しやすくことが ICRI の任務である、と述べている。この任務を遂行できるかどうかは、局所的レベル、国家的レベル、地域的レベル、および国際的レベルで ICRI の諸活動を調整するためのメカニズムをつくることができるかどうかにかかっている。

ICRI の東アジア海地域戦略は、「行動のための枠組み」を実施できるように国を支援するために作られたものである。このセクションは、この地域戦略の実施を支援するためにはどのような調製機構と資金的なメカニズムが可能かを明示することを目的としている。この戦略を実施するためには、この戦略の原則に焦点を合わせた持続可能で長期間継続する資金の供給が不可欠であることが分かる。

現存するプログラムおよび計画は、利用可能な希少資源を最も効果的に活用する方法で行われるべきである。

資金が効果的かつ効率的に使用されるようにし、また長期的には地域的な戦略の条

件が満たされるようにするためには、監視と評価が重要であることが分かった。

4.1 ICRI の諸活動の調整メカニズム

目的

東アジア海地域における局所的レベル、国家的レベル、地域的レベル、および国際的レベルでの ICRI の諸活動を効果的に調整できるようにすること。

行動

- a. 全ての地域内およびこれらの地域間での ICRI の諸活動の国際的な調整が効果的に行われるようにするメカニズムを確立し、またこのメカニズムが東アジア海地域を適切に代表するようにする。
- b. 東アジア海地域におけるサンゴ礁の保全と持続可能な利用に関するプログラムを実行する、国際的、地域的そして政府関係、非政府関係のメカニズムの間の調整と協力を促進する。
- c. 東アジア海域内での ICRI の諸活動を調整しやすくし、この戦略に概説されている諸活動の国内での実施に協力するための機構をつくる。
- d. 国家的そして地域的な調整を担当する主要な国家機関を適宜明示する。
- e. UNEP/EAS は、東アジア海地域における ICRI の調整を主導する任務を負う UNEP EAS/RCU の設立の可能性について検討しなければならない。

4.2 戦略実施のための資金

目的

サンゴ礁およびその関連生態系の長期間の保全と持続可能な利用が効果的に行われるようにするための、持続可能な資金の供給源をつくること。

行動

- a. ICMの持続可能な資金を提供する私的なセクターとの提携を促進する。
- b. 「利用者が支払う」という原則に則った画期的な資金提供メカニズムをつくり、効果的な管理を強化する社会経済的な誘因をそろえる。
- c. 各国が資金源を明確にし、使用できるように奨励し、これに協力する。
- d. 現存する資金源を最大限に活用し、別の資金源をさがすための基礎として、地域の優先事項を決定する。
- e. 地域的、国際的な資金提供機関を見つけ、そこから資金が提供されるようにする。
- f. 政府が外部の資金源に見合った資金を提供するように奨励する。
- g. 信託資金を発展させるメカニズムをつくる。
- h. 他の持続可能なそして画期的な資金源を見つけ、これを発展させる。
- i. 現存する資金源を最大限に活用し、別の資金源を探す教育プログラムをつくる。
- j. この戦略に基づいて、資金源を探す条件を設定する。

4.3 監視と評価

目的

この戦略を実施した場合の効果を監視し評価するためのメカニズムをつくること。

行動

- a. 提供された資金がこの戦略に効果的に使用されているかを評価し報告する。これには、年報、実行委員会の会合、国内の評価などがある。
- b. この地域内および諸地域間の ICRI の諸活動を効果的に監視し、評価し報告するための、統一の取れた機構を利用できるようにする。
- c. この戦略の実施により得られた経験についての情報を国際社会と共有する。
- d. ICM のプログラムに、この戦略の成果を評価する条件を決めるメカニズムを取り入れる。
- e. この戦略の実施の効果を評価するタイムテーブルをつくる。